

ヘリコバクター・ ピロリと胃疾患

胃粘膜に住みつくヘリコバクター・ピロリ（以下ピロリ菌）は、日本人の約6000万人に感染しているといわれています。このピロリ菌の一部は、慢性胃炎、胃潰瘍などのさまざまな胃疾患と関連していることが明らかになってきました。

ピロリ菌とは…

胃には強い酸があるため、昔から細菌はいないと考えられていました。ところが、1983年オーストラリアの医師が、胃からの培養に成功し、ピロリ菌が胃の中に生息していることを報告しました。この菌は、長さ3〜5ミクロンのらせんの形をしていて、一方の端に鞭毛と呼ばれる毛が4〜8本付いていて、これをくるくると回転させながら、胃の粘液中を動き回ることができます。

ピロリ菌はどのくらい？

ピロリ菌は、主に口を介して感

染をします。感染する時期は、成人と比べ、胃酸の分泌量が少なく、胃の免疫力が弱い乳幼児期に多く起こると推測されています。日本人の感染率は、若年者ほど低く、年齢をとる毎に高くなり、40歳以上では約7〜8割が感染していると考えられています。

ピロリ菌が胃の中で 生きていける理由は？

ピロリ菌は、ウレアーゼという酵素をもち、胃の中にある尿素を分解してアンモニアを作り出します。これにより、周囲にアルカリ性の環境を作り出し、胃酸と中和することにより身を守っています。

ピロリ菌に感染すると…

ピロリ菌により作り出されたアンモニア、分泌される毒素などにより、胃の粘膜の障害がおこり、胃炎となりますが、ほとんどの人は自覚症状がありません。しかし、ピロリ菌は胃潰瘍の発生に関係が

深いといわれ、胃潰瘍の人の約8割が、ピロリ菌に感染しています。この菌のいる潰瘍は、胃酸分泌を抑える薬などにより改善はしますが、ピロリ菌による胃粘膜の障害が残されたままなので、潰瘍は再発しやすくなります。1年以内に再発する人は、約6〜7割といわれています。

何度も潰瘍を繰り返す 人はどうするの？

まず、ピロリ菌に感染しているかどうか検査を受けてみましょう。検査は内視鏡を使う方法、検査薬

を飲み呼吸中のアンモニアを調べする方法、採血、検尿による方法があります。感染をしている場合は、ピロリ菌の除菌が有効と思われるます。除菌の方法は抗生剤を2種類と胃酸を抑制する薬を1週間内服しますが、多少下痢などの副作用があります。約8割以上の確率で除菌は成功し、1年以内の潰瘍の再発は1割程度に減少します。

(医師会)

